



ポストコロナとエレクトロヒート技術の進展について

須田 芳之 一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 理事

本誌が発刊される頃には、初のWEB開催となった、第15回エレクトロヒートシンポジウムへの反響も届いている頃かと思われるが、同シンポジウムの開催方法にも大きな影響を与えた、コロナ禍そしてポストコロナにおけるエレクトロヒート技術の進展について考えてみたい。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、私たちを取巻く環境は、依然として厳しい状況にあるが、こうした状況下においても、最前線で戦い続けておられる医療従事者の皆さまをはじめ、私たちの日常生活を支えるためにご尽力いただいているエッセンシャルワーカーの皆さまに、先ず以て心より敬意を表したい。

さて、当社において、エレクトロヒートセンターのお力をお借りし、昨年10月に中国地方で初めて開催した、「廃熱活用セミナー」について、その一端をご紹介させていただく。

広島市内の会場にて、約90名のお客さまにご参加いただき、エレクトロヒートセンターよりSDGs・ESG投資の視点からの廃熱活用を通じた省エネ実現と低炭素・脱炭素への取組みの必要性について解説していただくとともに、メーカー各社より工場において大幅な省エネ・コスト削減を実現した導入事例を紹介していただくなど、廃熱活用に関する情報を幅広く得られる機会となった。講演終了後の個別相談会場では、順番待ちのブースも出るなど大変盛況となり、参加されたお客さまからは、「一度、工場内を見てもらいたい」「廃熱利用の重要性・背景が理解できた」との声をいただくなど、廃熱活用に関する関心の高さを実感することができた。

今年はコロナ禍のため、お客さまにはリモートでご参加いただくなど、昨年とは形を変え同様のセミナーを開催する予定としており、更なるエレクトロヒート技術の普及・脱炭素化へ貢献できればと考えている。

ところで、この度のエレクトロヒートシンポジウムは、WEB開催とせざるを得ない状況であったが、WEB方式の強みを活かし、今までリーチできていなかった層との接点創出や、発信するコンテンツ充実につながることを期待している。今まで届かなかった声に耳を傾け、新たなニーズを拾い、エレクトロヒート技術の普及につながる案件の発掘・醸成に資する機会として、ウィズコロナにおける新たな情報発信の形となることを願っている。

この度の新型コロナウイルス感染症の拡大は、リモートワーク、移動の自粛など日々の暮らしを一変させている。こうした変化は、いわゆる「ニューノーマル」として、社会に不可逆的に定着していくものと思われ、非対面・非接触をコンセプトとするビジネスモデルの進展を加速させている。昨今の新聞紙面等からも、生産現場である工場において、リモート化が急速に進展し、生産性が一気に向上していくとともに、リモート制御から自律制御へと進化し、イレギュラーな事象が発生した場合でもAIにより学習・適応する機能が脚光を浴びる時代が間近に迫っていることを感じさせられる。そうした制御・機能との親和性が高いエレクトロヒート技術が担う役割は、今後、大きなものになるに違いない。図らずも私たちは、社会の転換期・変革期の真只中に居合わせており、コロナ禍に翻弄されている現状を悲観するのではなく、ウィズコロナそしてポストコロナを見据え、現状を新たなビジネスチャンスと捉え、「守り」に徹することなく「攻め」の姿勢をとりながら、変わることを恐れずに進んでいきたい。

(すだ よしゆき) 中国電力株式会社 販売事業本部 部長 (ビジネスソリューション)